



414
A2417



豫書申起業公債證書發行公布之儀ニ付伺
 内國債新規募集之儀即令右施行ノ方法手續等
 稍整頓致シ漸次着手可及ト存候間過日及進達
 置候御布告案高裁之上此節御發令相成候様致
 度依テ別冊起業公債證書發行條例案共ニ布達
 案相添仰高裁候其他第一國立銀行及ニ三井銀
 行ニ命令状案兩通并ニ同銀行ニ示達案共相添
 供高覽候條至急御裁可有之度此段相伺候也
 明治十一年四月廿五日 大藏卿大隈重信
 太政大臣三條實美殿

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



内國債募集ニ付キ御布告按

般務ノテ國中公益ノ諸事業ヲ振起シ彌々
物産ノ繁殖ヲ謀リ内外ノ商賣ヲ盛ニスル為メ
新夕ニ是年貳百五十拾萬圓ノ内國債ヲ起シ其
費用ニ供スルニ被決定右募債方一切大藏
省ニ委任相成候ニ付追テ詳細ノ儀同省ヨリ
可及布達候條此旨布告候事

明治十一年

月日

太政大臣三條實美

内國債募集ニ付キ御布告按

今般務ノテ國中公益ノ諸事業ヲ振起シ彌々
物産ノ繁殖ヲ謀リ内外ノ商賣ヲ盛ニスル為メ
新々ニ壹千貳百五十拾萬圓ノ内國債ヲ起シ其
費用ニ供スルニ被決定右募債方一切大藏
省ニ委任相成候ニ付追テ詳細ノ儀同省ヨリ
可及布達候條此旨布告候事

明治十一年

月日

太政大臣三條實美

起業公債証書發行條例發布ノ儀ニ付布達業

令般内國債募集ノ儀ニ付本年月太政官第 號布告ノ
旨趣ニ因リ起業公債証書發行條例別冊ノ通り相定メ
施行セシメ候條此旨布達候事

年月日

大藏卿大隈重信

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

起業公債証書發行條例

此公債ハ明治十一年月太政官第 號布告ノ旨趣ニ
基キ要用ノ金額ヲ募集スル為メ起メ所ニシテ是ヲ
大日本政府ノ公債トシテ各債主ヘハ此公債証書ヲ
交付シ年限ヲ定メテ之ヲ償却スルニ付大藏省ニ於
テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 公債証書ノ元高種類并
利息ノ制限ヲ示ス

第一節 此公債ノ元高ハ壹千貳百五十拾萬圓ニシテ年六
分ノ百分ノ利付トシ其元金ハ二箇年間据置キ三箇年目
（即チ明治十三年）ヨリ向二十三箇年ヲ限リ（即チ明治三
十五年迄）毎年（第四條ニ掲クル）抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ
拂度スベシ而シ其利息ハ（第三條第二節但書并ニ第四

第...分ヲ除キ)募金拂込ニ皆済ノ後ヨリ明治三十五年迄毎年六月十二月ノ兩度ニ之ヲ拂渡スベシハ本又金銀紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スベシ

但明治十三年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂度スニ當テハ年六分ノ利息月割抽籤十五日前ニ係ルハ前ハ半箇月分下渡スヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒ月迄ノベキモトス

第二節 此公債証書面ノ金高ヲ五百圓、百圓、五十圓ノ三種ニ區別シ利息ノ小札付キトス

但本又ノ利札ハ每半年利息渡シノ時ニ其渡方ヲ取扱フ銀行等ニテ取引換ニ其金額ヲ得ヘキモノトス

第二條 公債証書授受賣買等ノ示ス

第一節 此公債証書ハ(第六條ニ掲クル)記名ニ更改スル分ヲ除キ)所有主ノ名ヲ記サズ故ニ書換又ハ管廳ノ檢印ヲ受クル等ノ手數無クシテ授受賣買等(外國人ヲ除クノ外)各自ノ隨意タルベシ
但賣入書入(外國人ヲ除キ)及ニ相續人ヘノ遺物ニ勝手タルベシ

第三條 募債ニ出金等ノ手續概畧ヲ示ス

第一節 此公債ノ募集方并ニ元金ノ渡方トモ都テ第一國立銀行及ニ三井銀行ヘ委任シテ取扱ハシムルカ故ニ申込ノ手續引受ノ賣高、期限、場所及ニ利息并ニ元金ノ渡方其他必要ノ件々ハ右兩銀行本店若クハ支店及ニ其取引仲間等ヨリ追テ新聞紙等ヲ以テ廣告ニ及ゲベシ

第二節 券リニ應ニ出金スルノ時期ハ都合四度ト定メ
最初引受方申込ノ時手付金ヲ拂込マシメ其後ハ第一
第二第三ト割拂フ以テ順次ニ出金セシムルモノトシ
其時日ハ右両銀行等ヨリ廣告スベシ

但第三割拂迄ノ利息ハ其出金高ニ準シ年六分ノ割
合ナル月割拂込後十五日以前ハ半箇月分十六
ノ月割法亦之ニ依リテ之ヲ拂渡スベシ

第三節 右四度ノ内手付金拂込ノ時ハ該銀行ノ受取書
ヲ其ハ第一割拂ノ時ニハ右受取書ト引換ニ假証券ヲ與
ヘ第二割拂ニハ新假証券ヲ以テ旧假証券ト取換ヘ第
三割拂ノ時ニ至リ此公債証券ヲ假証券ト引換
ニ交付スベシ尤モ右受取書及ニ假証券及ヒ引受方申
込書トモ都テ印紙界紙ヲ用フルニ及バス

但公債証券ノ種類ハ大藏省ノ都合ニ依リ之ヲ交付
スベシ

第四節 手付金又ハ第一第二第三割拂ノ時トモ都
テ其定期ノ時日ニ先ツテ入金スル者ハ其高ニ對シ
年六分ノ割合ナル利息月割ヲ以テ入金ノ四ヨリ割引
シテ債主ニ拂渡スベシ

第五節 右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムルニ付テ
ハ若シ初度ノ手付金相済ニ更ニ第一割拂若クハ第二
第三割拂出金ノ定期ヲ愆マツ者ハ其以前差出シタル
金額ニ當人ノ損失ニ歸セシメテ返典セザルベシ

第六節 出金未タ皆済ニ至ラス此公債証券ヲ受取ラザ
ル以前タリトモ當人ノ都合ニ依リ第一割拂ヨリ交付
シタル假証券ヲ授受賣買スルハ(外國人ヲ除クノ外)勝

六
債
券

手カルベシ尤モ授受賣買ノ節ハ其証券ノ裏面ニ讓渡
人(又ハ賣主)ノ姓名住所ト讓受人(又ハ買主)ノ姓名住所
トヲ記載シ且ツ調印スルモノトス

但此讓受人(又ハ買主)ニテ其次ノ割拂出金ヲ懲期ス
ルハハ本條第五節ノ通りタルベシ

第七節 若シ申込込ノ出金高募集スベキ見込高ヨリ超過
スルハハ該銀行ニテ之ヲ總体ノ申込込高ニ割付ケテ平
等ニ減却シ而シテ其手付金ノ過剩トナルハ第一割拂
ノ拂込金ニ廻スベシ尤モ其時ノ都合ニ依テハ別ニ通
宜ノ方法ヲ設ケテ之ヲ減却スルコトモアルベシ

第四條 抽籤ノ手續
規程ヲ示ス

第一節 毎年抽籤ノ以テ此公債ノ拂戻シヲ定ムルニハ
此公債ヲ取扱フ銀行本店ニ於テ其手ノ十月中該地方

身柄ノ人ニテ此公債証券(無記名記名トモ)ヲ所持スル
者五人以上ヲ撰ニ大蔵省國債局ノ官員ト。其地方廳ノ
官員各兩名以上立會ノ上抽籤ヲ以テ其年ニ拂戻スベ
キ証券ノ記号番号ヲ公定シ申リ籤ノ記号番号ハ速ニ
新聞紙等ヲ以テ廣告スベシ

第五條 証券ノ毀損等ノ
心得方ヲ示ス

第一節 此公債証券ハ自然垢付或ハ少々ノ損シ等アル
トモ金高及ヒ主要ノ印部等ニ損害ナク正真正正ノ証券タ
ルヲ保認スベキハ當然ノ規則ニ隨ヒ元利金ノ渡方
ヲ為スベシ尤モ過失ニテ此公債証券ノ一部分ヲ燒損
シ又ハ金高及ヒ主要ノ印部等ヲ毀損シ或ハ之ヲ見認
メ難キ程ノ墨付等アレバ速ニ其手續書ヲ添ヘテ兩銀
行ハ本店又ハ大阪ニアル支店ニ持参シテ引換ヲ乞フ

ハシ両銀行ハ其事實ヲ承明シテ後之ヲ大蔵省ヘ具申シテ此引換ヲ為スベシモ大蔵省ニ於テハ其事實ハ勿論談証書面ニ至高番記号ノ部分必ず判然存在シ真正ノ証書ニ相違ナシト見認ムルハ之ガ引換ノ為スベシ

但此引換ヲ乞フニハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フベシ

第六條 記名公債証書ニ更改スル手續

第一節 此公債証書ハ授受賣買等ヲ便ニスル為メ本条無記名ナレトモ所有主ノ請願ニ依リテハ之ヲ更改シテ更ニ記名証書ト為スヲ得ベシ其更改ノ手續ハ規則等左ノ如シ

第二節 無記名証書ヲ記名ニ更改スルニハ証書ヲ引換

エルニ非ス又此証書本紙ニ記名スルニ非スシテ本條

第四節ノ取扱ヲ以テ之ヲ定ムルモトス

第三節 右記名ヲ請願スルニハ第二條最後出金ノ定期

ヨリ七八十日乃至五六十日以前ニ其旨ヲ此公債ヲ取

扱フ兩銀行ノ本支店若クハ取引仲間等ニ申込ムベシ

右銀行ノ支店英ニ取引仲間等ニ申込ムタルガヲ取纏

メ請願人ノ姓名住所英ニ入用証書ノ至高寺ヲ詳記シ

大蔵省ヘ具申シ記名極印濟ニノ証書ヲ(記名紙相添ヘ)

受取り之ヲ其本人ヘ交付シ本人ヨリ更ニ之ヲ常廳ヘ

持出テ記名其他次第ノ手續ヲ受クベシ

第四節 前節ノ如ク大蔵省ヘ具申ノ上ハ同省ニ於テ該

証書ニ其記名タル極印ヲ押シ之ヲ簿冊ニ登記シ置キ

再之ヲ其銀行ヘ送付シテ其本人ヘ交付シ本人ヨリ

管廳ハ持出ルモノトス管廳ニテハ該証書ノ種類(至高
記号番号枚數及ヒ所有主ノ姓名住所年月日等ヲ簿冊
ニ登記シ該証書ニ記名紙ヲ糊附シ該廳ノ雜印ヲ為シ
所有主ノ姓名住所ヲ記入シ該廳ノ割印及ヒ公債掛ノ
捺印ヲ捺シテ再ヒ之ヲ所有主ヘ付與スベシ
但一旦無記名証書ヲ引渡シ置キ退テ記名ニ改メ
ト欲スル者ハ該証書ニ其種類(至高記号番号枚數ノ
目錄書及ヒ願書ヲ添ヘ管廳ヘ申立バシ管廳ヨリ
ハ願人ヘ証書ノ受取書ヲ渡シ置キ之ヲ大蔵省ヘ具
申シテ極印濟シノ証書若シ記名紙ヲ受取リ成規ノ
如ク再ヒ之ヲ其本人ヘ付與スルノ手續ヲ為スモノ
トス尤モ記名紙ハ地方官ノ見込ヲ以テ豫メ之ヲ大
蔵省ヨリ受取リ置クモ適宜タルベシ

第五節

前節ノ如ク無記名証書ヲ記名証書ニ更改シテ
レ上ハ之ヲ授受賣買シ或ハ引當物ニ為シ又ハ紛失盜
難及ヒ流焼失等ノ虞ハ明治八年五月太政官第九十五号布
告改正新田公債証書發行條例第六條七條八條九條十
條ヲ適用スベシ尤モ條例ヲ此記名公債証書ニ適用
スル場合ニ於テハ右條例中改換削除スベキ條々左ノ
如シ
但元利全渡方等ノ手續ハ無記名公債証書ト同様ナ
ルモノトス
右條例第六條ヨリ第十條迄ノ内ニ「新田公債証書」共ニ
「新田公債証書」トアルハ都テ「此記名公債証書」ト改ム
同第六條第一節但書ノ「其都度大蔵省ヘ届出バシ」ヲ置
同名ベシニ改ム

同條第二節ニ「証書裏面ハ形ノ通り裏面裏面及ヒ同條第三節ノ「証書裏面ハ形ノ如ク裏面離形ハ都テ記名紙ハ未ニ附スル離形ノ通りト改ム

同條第三節ノ「大藏省ハハ云々」ノ十五字ヲ置クベシニ改ム

同條第四節ノ但書ヲ削除ス
同條第五節并ニ第七節八節ノ「証書ハ割印」ハ都テ記名紙割印ニ改ム

同條第七節ノ「且大藏省ハハ一月外翌月五日迄ニ云々」ノ二十七字ヲ削除ス

同條第九節ノ「就テハ年々元利金云々」ノ十八字ヲ「尤モ年々元利金拂方ハ此公債ヲ取扱フ銀行等ニテ拂渡ス

ト改ム

同條第十節ノ「年々元利拂及」ノ六字并ニ「年々元利受取或ハ」ト両所ニ在ル都合十六字及ヒ第十二節ヲ削除ス

同條同節中ノ「前條」ヲ「第七節」ニ改ム

同條第七節第一節ノ「其所持人」ハ下渡スベシ云々」ヲ四十七字ヲ「何人タリトモ其持參人」ハ「外國人ヲ除ク」ノ外相渡スベシニ改ム

同條第八節割註ノ二十一字ヲ「此公債証書記名紙ニ改ム」ニ改ム

同條第一節ノ「裏面記名ノ場所」ヲ「記名紙ノ餘格」ニ改ム
「証書」ヲ「記名紙」ニ改ム

同條第九條第一節ノ但書ヲ削除ス
同條第二節ノ「地方官廳ニテハ即右ノ旨ヲ云々」ノ六十

三字ヲ削除ス

同條第三節ノ「公布」ヲ「布達」ニ改ム

第七條

証書製造等ノ
假令ヲ示ス

第一節 此公債証書（無記名記名トモ）ヲ私ニ剥去リ又ハ
切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊附ニスル等ノ事ヲ為ス
ベカラス若シ犯ス者アレバ裁判ノ上其全高十倍以下
ノ罰金ヲ命スベシ

第二節 此証書ヲ贋造シ又ハ人ヲシテ贋造セシメ又ハ
人ノ贋造スルヲ助ケ又ハ贋造ト知リテ通用シ又ハ証
書ノ圖画文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ
變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙
品等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スベシ

第八條

第一節 政府ノ都合ニ依リ要用ノコトアレバ利息及ヒ償
却年限ヲ除クノ外此條例ヲ増補シ又ハ之ヲ改正スベ
シ

第二節 右増補改正等アルハ速ニ其旨趣ヲ公告スベ
シ

明治十一年 月 日

大藏省

記名紙雛形

割印

本文證書何大區何小區何町何某
相渡候者也

明治何年何月何日
何縣公債掛
何某印

此證書是這地者所持之證書殿讓渡候事實止也

明治年 月 日

殿

本文之通相違無之者也

明治年 月 日

公債掛

此證書是這地者所持之證書殿讓渡候事實止也

明治何年何月何日

何縣下何大區何小區何町何某
何町何番地何番

本文之通相違無之者也

何縣公債掛

明治何年何月何日

何某印

此證書是這地者所持之證書殿讓渡候事實止也

明治年 月 日

殿

本文之通相違無之者也

明治年 月 日

公債掛

大 森 史

第一国立銀行へ命令状案

第一国立銀行

三井銀行

本年月第 號布告ノ旨趣ニ基キ内國債ヲ募集
スル為ノ其取扱方ヲ委任スルニ付命令スル所
ノ要件左ノ如シ

第一條

此度募集スベキ公債ノ取扱方ヲ為サシムルニ付誠
實ニ本任スベキ事

第二條

此公債發行ノ旨趣方法ハ右ニ関シテ發布セル布告
布達其他ニ因リ之ヲ承知シ其旨趣ヲ遵奉シテ諸般
ノ取扱ヲ為スベキ事

大正十一年四月
大隈侯爵印
贈

第三條

右ノ如ク委任サレタル上ハ右取扱方ニ必要ナル件ハ却テ其金支ヲ書認ノ大藏省へ伺出承認ヲ得ル上新聞紙等ヲ以テ世上一般へ廣告スベキ事

第四條

此公債ノ発行高ハ壹千貳百五拾萬圓ニシテ引受人ヨリ拂込ムベキ現金ノ實高ハ百分ノ八十即チ百圓ニ付八拾圓宛ノ割合トシ總計壹千萬圓ノ實高ヲ舉クベキ事

第五條

右現金ノ拂込方ハ(最初ノ手付金拂込トモ)都合四回ニ分チ申込ノ時期ヲ本年八月限リトナシ其後ナノ二回ハ見計ヒテ以テ其時期ヲ定メ最後ノ拂込ハ来ル十

二年四月限リタルベキ事

第六條

右等ヲ取扱フ為ニ付テハ該銀行本支店所在ノ東京大阪ヲ以テ根本ノ取扱所ト定メ他ノ各地方ハ其便宜ノ地ニ在ル堅固ナル銀行并ニ取引仲間等ヲ撰ニ相共ニ約束協議ノ上可成丈ケ手廣ク申込出金等ヲ為サシメ及ヒ元利渡方其他ノ事ニ於テモ不都合無キ様精々注意取計フベキ事

第七條

引受人ハ交付スベキ手付金ノ受取書并ニ割拂拂込ノ假証券ハ該銀行ニテ適宜ニ製定スベシ而シテ公債証券書ハ官ニ於テ製造シ其時ニ臨ミ相渡スベクニ付不都合無キ様渡方ヲ為スベシ尤モ公債証券書ノ渡方

相済ミタル上ハ大蔵省へ詳細具申スベキ事

第八條

該銀行ニテ引受人ヨリ受取リタル金圓ノ納付并ニ
取扱手續及ヒ手数料等ノ事件ハ更ニ詳細相違スベ
キ儀ト心得ベキ事

右之通命令スルニ付承諾ノ上請書可差出候也

年月日

大蔵卿姓名印

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

副

第一國立銀行へ第二次命令状案

第一國立銀行

三井銀行

此度内國債ヲ募集スル為メ其取扱方ヲ委
任スルニ付最前相渡シタル命令状第八條
ノ旨ニ依リ再ヒ命令スル所ノ要件左リ如
シ

第一條

公債引受人ヨリ受取リタル金圓ハ都テ受取リ
タル日ノ翌月十日ヲ限り東京ハ大蔵省中出納
局へ大坂ハ同所ニ在ル出納局出張所へ納付シ
其受領證ヲ引受人ノ名前金高等ヲ詳載
シタル調書ト共ニ之ヲ東京國債局へ差出ス

大蔵省

キ事」

第二條

右納付ノ期限ヲ愆ツ丁ハ勿論有ル間敷丁ナレ
凡萬一金高入負ノ調査ニ手間取り隨テ完全ナ
ル納付手續ニ至リ難キ節ハ金額ノミ右期限ノ
通り東京大坂出納局へ取り納付シ追テ金高
入負等ノ調査ヲ言出スベキ事

第三條

右募集ノ金圓ハ勿論眞實鑑定ノ上之ヲ受取ル
ベキ等ニ付若シ官納ノ際眞造等之レ有ル節ハ
其銀行ニ於テ之ヲ引替ユベキ事

第四條

此公債元利金ニ供スベキ金額ハ東京大坂貳ヶ

所ニ於テ其本支店へ下渡スベキニ付他ノ各地
方支店取引仲間等へノ送致方ハ此銀行ニ於テ
取扱フベキ事

第五條

右下渡シタル元利金并ニ募集ノ金額トモ逋送
ノ保障ハ勿論元利金債主へ渡済ミ若クハ募集
金官納済ミ追ノ際萬一如何ナル故障ニ係ル丁
アルトモ都テ兩銀行ニ於テ引受ケ其責ニ任ス
ベキ事

此場合ヨリ生スル損失金ハ悉皆兩銀行
ニ於テ之ヲ償フベキ事

第六條

毎年等利息渡ノ節切取りタル利札ハ明細調査

ト夫ニ直ニ東京國債局へ納付スベキ事

第 七 條

此公債募集ニ関スル一切ノ手数料トシテ
取書ニ下ニ割拂出金假託券ノ製造費公債証書
其他都テ公債証書渡済ニ進ヲ合計ス面ノ金高千圓ニ付通貨三圓宛ノ割合ヲ以下
渡スベキ事

第 八 條

此公債取扱ノ事ヲ兩銀行ニ委任シタル上ハ必
然連帶シテ一銀行同様ニ其責任ヲ負荷スベキ
事

第 九 條

命令状ノ内實際施行上ニ於テ不適當又ハ遺漏
ノ虞アラハ何時ニテモ箇條ノ改正増補等ヲ命

トスル丁アルベキ事

右之通命令スルニ付承諾、上請書可差出候也

身 月 日

大藏卿姓名印

第一國立銀行へ示達案

第一國立銀行
三井銀行

今般内國債ヲ募集セラル、ノ大旨ハ既ニ本年第 號ノ公布
 ヲ以テ告示セラレタリト雖モ尚才其起業ノ目的等ヲ提記マ
 ンニ夫レ本邦従来農ヲ以テ國ヲ立テ頌ル其効績ヲ顯ハスト
 雖モ全國中現ニ耕植ニ宜シキ田ニシテ以シテ草萊ニ委シ牧
 畜ニ佳ナル野ニシテ猶才硤瘠ニ属スルモノ多シ嘗テ試ニニ
 土地人コニ就テ之ヲ驗スルニ全國ノ面積大約貳萬四千八百
 方里ノ多キニ居ルモ其耕地ハ凡貳千七百餘方里ニシテ僅カ
 ニ十分ノ一強ノ割合ニ過キヌ而シテ人口ハ三千四百三拾八萬
 八千三百餘人ノ内千五百六拾三萬六千餘人ヲ農トシ即チ

大正十一年四月
 隈侯爵邸寄

十分ノ四、半強ノ割合ナリトス則チ豈ニ之ヲ地ニ遺利アリ民
ニ餘カアリト謂ハザルベケンヤ其然ル所以ヲ推考スレバ復
唯運輸ノ便能ク関ケズンテ其産出スル物動モスレバ一所ニ
凝滞シテ各地ニ融通セス遂ニ其利用若シクハ價格ヲ亡失ス
ルニ至ルノ弊多キニ居レリトス而シテ又斯ニ他ノ商工モ隨テ
販賣製作等ノ職業ヲ盛大ニスルニ由シ無キ所以ノ實アル
推シテ知ルベキナリ又本邦ノ鑛山ニ富ムハ夙ニ著名ナリト
雖モ資本器械ノ充足セザルト人民ノ此業ニ習練スルノ少キ
トニ由リ或ハ之ニ従事スル者アルモ多クハ充分ノ利ヲ收ム
ル能ハス其甚シキハ多少ノ收益ヲ確認スベキ良坑アルモ措
テ之ヲ不問ニ付スルニ至レリ且ツ方今ノ際銀行諸會社ノ如
キ稍繁興ノ運ニ赴ケリト雖モ之ヲ要スルニ高賣製作ノ事依
稀振ハスレテ運用活動ノ道ニ乏シキヲ以テ動モスレバ其積

集ノ資本ヲシテ空シク凝滞ニ委セシムルノ現状無キ能ハザ
ル所以ノモノハ他無シ復タ物産繁殖ノ源未タ関ケス融通運
輸ノ道能ク通セザルヲ以テ其交互連貫相待テ進歩スルヲ得
ザルノ故ニ坐スルノミ故ニ今ノ際ニ當テ本邦ノ計ヲ為スニ
豈ニ又務メテ海門ヲ脩繕シ陸路ヲ開通シ以テ往來運輸ノ便
ヲ擴張シ供セテ諸鑛坑ノ開採共ニ開墾牧畜其他ノ農事ヲ振
起改良シ以テ百貨物産ノ増殖ヲ謀ルニ過キタルモノアラン
ヤ是レ實ニ今日ノ急務ニシテ其起業ヲ渴望スル蓋シ一日ニ
非ザルナリ今ヤ政府方サニ觀察採擇スル所アリ右等ノ事業
ヲシテ大ニ振作スル所アラシメントス而シテ是レ原ト巨額ノ
費途ヲ要シ曾テ賦稅其他ノ能ク辨了スル所ニ非ザルヲ以テ
百方之ヲ經畫シ終ニ此公債ヲ起シ募集スル所ノ金額ヲ以テ
悉ク此費途ニ供スルヲ議決セリ蓋シ此起業タル施為其運

レキヲ得ルニ於テヤ乃テ殖産ノ利源ヲ開キ商賣ノ隆運ヲ贊
レ終ニ全國ノ富實ト一般ノ幸福トヲ組成スルノ基本タルト
茂タ疑ヲ容レザル所ナリ若夫レ此公債ノ如キハ既ニ政府ノ
信憑ヲ以テ發行セル利付ノ債券ナレバ之ヲ有スル者ハ坐カ
ラ自個ノ儲蓄ヲ増殖スルヲ得而シテ其募集ニ充ツル所ノ金額
ハ孰テ國家富實ノ資用ニ供シ以テ一般ノ便益ヲ増スヲ得富
者ハ之ニ由テ其蓄積ノ實貨ヲ削却シテ尾礫ト同視スルノ弊
無ク貧者ハ之ニ由テ各々其應分ノ力役ニ就キ始終生産ヲ保
ツノ益アル等其便利昭々乎トシテ藏フベカラザルモノアリ
仍テ今爰ニ起業ノ部類先ニ此公債ノ費途概目ヲ揭示スル
此ノ如シ

第一 西京大阪間ノ鐵道線ヲ延ヘテ直ニ敦賀港ニ達スル
事

第二 新潟并ニ石ノ巻等ノ諸港ヲ疏鑿修繕シ及ヒ各地要
用ノ陸路阪道ヲ開通削平スル事

第三 秋田縣下院內阿仁其他ノ鑛山開採ヲ改良シ及ヒ銀
銅製煉所ヲ設立スル事

第四 北海道岩内幌內ノ炭坑ヲ開鑿スル事

第五 諸曠野ヲ開墾シ及ヒ牧畜其他ノ農事ヲ興起改良ス
ル事

右數項ノ起業ハ此公債募集ノ拳ト共ニ順次着手シ大小難易
ニ由リ遲速アルベシト雖モ大抵二年乃至五年迄ニシテ竣功
ヲ見ルハ目的ナリ而シテ此公債募集ノ金額ハ決シテ他ニ消費
セズ悉ク拳ケテ以テ右等ノ起業ニ充ツルハ既ニ確定シテ動
クナラズ雖モ其之ヲ各起業ニ分附スルノ割合ハ實際ニ於
テ多少斟酌スル所無キ能ハザルヲ以テ暫ク之ヲ明示セズ尤

モ右起業上ノ計算ハ着手ノ初メヨリ殊ニ之ヲ詳明ニシ毎年
其進歩ノ景状ト收出ノ計算トヲ公示スベシ且ツ此公債元利
ノ支消ハ右等起業ニ於テ回收スル所ノ利益ヲ以テ之ニ充ツ
ル見込ナリト雖モ起業創始ノ際ニ當テハ固ヨリ其收益ヲ見
ル能ハザルノミナラス又右ノ起業中ニハ全般ノ殖益ヲ主ト
シテ該業ノ得失ノミニ関セザルノ類アルヲ以テ此公債ノ元
利拂戻シノ目的ハ原ト大藏省ニ於テ別ニ計算ノ在ル有リ追
テ本年度ノ歳入出豫算公布ノ日ヲ待テ之ヲ詳悉スベシ
右ノ通旨心得示達候條體誌盡力可致候事

年月日

大藏卿 姓名 印